

環境省 子どもの環境と健康に関する全国調査（エコチル調査） 国際シンポジウム（案）

環境省は、平成24年2月28日（火）、北九州国際会議場（福岡県北九州市）にて、「エコチル調査国際シンポジウム」（日英同時通訳付き）を開催します（北九州市、産業医科大学共催）。

第一部では、世界で進められている子どもの健康に関する大規模追跡調査について、各国の研究者から紹介します。また、前日2月27日（月）に開催される、世界保健機関（WHO）主催の「次世代の大規模出生コホート（集団追跡）調査の協調に関する作業グループ会合」の結果を報告します。

第二部では、エコチル調査の取組状況と成果について報告します。次いで、産業医科大学の研究者、北九州市担当官を交えて、エコチル調査が国民の期待やニーズに応えるためのパネルディスカッションを行います。

シンポジウムへの一般参加申込みは、平成24年2月24日（金）まで。

開催日時

平成24年2月28日（火）13:00～16:30

開催場所

北九州国際会議場

■JR JR小倉駅より徒歩約5分

■飛行機 北九州空港よりバス約40分

福岡空港より バス約90分、あるいは地下鉄と新幹線で約25分

主催：環境省

共催：北九州市、学校法人産業医科大学

プログラム（予定）

13:00～13:10 開会

環境省挨拶

北九州市長挨拶

13:10～14:40 第一部 次世代の大規模出生コホート調査の協調に関するWHO作業グループ会合報告

1.1 日本の取組

環境省環境保健部環境リスク評価室 戸田英作氏

1.2 米国の取組

米国子ども調査プログラムオフィス Steven Hirschfeld 氏

1.3 ドイツの取組

ドイツ環境・自然保護・核安全省 Marike Kolossa-Gehring 氏

1.4 世界保健機関の取組

世界保健機関小児環境保健担当 Ruth Etzel 氏

1.5 国際作業グループからの報告

環境省環境保健部環境リスク評価室 戸田英作氏

1.6 パネルディスカッション

14:40～15:00 休憩

15:00～16:30 第二部 エコチル調査の取組状況と期待

- 2.1 エコチル調査の取組状況 エコチル調査コアセンター 佐藤洋氏
- 2.2 日本における先行研究 環境と子供の健康に関する北海道研究 岸玲子氏
東北コホート 仲井邦彦氏
- 2.3 パイロット調査の紹介 産業医科大学 川本俊弘氏
- 2.4 エコチル調査への期待 北九州市環境局 山下俊郎氏
- 2.5 パネルディスカッション

16:30 閉会

講師プロフィール

Steven Hirschfeld, MD, PhD

米国子ども調査プログラムオフィス所長

Acting Director, National Children's Study

Marike Kolossa-Gehring, PhD

ドイツ環境・自然保護・核安全省

Department of Environmental Hygiene

Umweltbundesamt/Federal Environment Agency

Ruth A. Etzel, MD, PhD

世界保健機関 (WHO) 小児環境保健担当

Senior Officer for Environmental Health Research Interventions for Healthy Environments, Department of Public Health and Environment,

World Health Organization (WHO)

佐藤洋

エコチル調査のコアセンター長を務める。東北大学医学部衛生学教室・環境保健医学分野教授を経て現職。中央環境審議会委員、食品安全委員会専門委員、日本医師会環境保健委員会委員なども務める。日本衛生学会賞、(社)日本医師会優功賞、厚生労働省労働基準局局長賞など受賞。

岸玲子

北海道大学環境健康科学研究教育センター・センター長 特任教授

2001年から「環境と子どもの健康に関する北海道スタディ」を立ち上げ、これまで約10年間の追跡調査を行い、エコチル調査の先駆的なモデルとなった。

仲井邦彦

東北大学医学系研究科・環境遺伝医学総合研究センター・発達環境医学分野 教授

2001年より環境由来化学物質の健康影響を検証するため、出生コホート調査を進めており、エコチル調査でも宮城ユニットセンターのメンバーとしてエコチル調査に参加している。

川本俊弘

福岡ユニットセンター長・産業医科大学医学部衛生学講座 教授

環境省中央環境審議会大気部会専門委員、厚生労働省薬事・食品衛生審議会臨時委員なども務める。

山下俊郎

北九州市環境局環境監視部長

2002年4月から2年間、JICAの大気汚染専門家として中国北京市の日中友好環境保全センターへ派遣された経験もある。

戸田英作

環境省環境保健部環境リスク評価室 室長

エコチル調査ほか、化学物質の環境リスク評価を担当している。経済協力開発機構（OECD） 環境保健安全課、環境省化学物質審査室長、市場メカニズム室長などを経て、2010年8月より現職。

エコチル調査とは

エコチル調査は、10万組の親子の参加者を3年間で募集し、子どもが13歳になるまで健康状況を追跡することにより、環境と子どもの健康との関連を明らかにする大規模な調査です。

エコチル調査には3つの意義があります。

一つ目はこども研究の進展。10万人の子どもの13年間追跡するという調査は、これまで最大規模のもので、多数の化学物質だけでなく、社会的な要因、心理的なストレス、遺伝要因などの複雑な絡み合い。子どもの健康状態も、健常・異常の二分法ではとらえられません。このような複雑な因果関係をとらえるには、大規模、長期にわたるデータ収集と、最新のデータ解析手法が欠かせません。

二つ目は科学を進める人材育成。領域架橋的な研究を担う研究者の育成、疫学研究の現場を担う調査担当者（リサーチコーディネーター）の育成、研究の成果を国民に分かりやすく伝えるサイエンスコミュニケーターの育成。

三つ目は社会貢献。研究の成果は、環境化学物質の管理政策に活用するほか、先進国に特徴的な環境と健康の関連の解明は、今後経済発展していく国々への貢献ともなります。